



平成20年3月に策定された「南島原市総合計画」
この計画は、『南向きに生きよう！「みんなが主役“市民協働のまちづくり”」』
を基本理念とし、まちづくりの将来像を「太陽の恵みと世界遺産のまち 南島原」
と掲げています。
今回はこの計画に定められている「市民協働」について特集したいと思います。

「市民協働のまちづくり」ってどういうけど 市は何をしようとしているの？

市民、事業者、行政の連携によってまちづくりを進めるために、行政情報の発信や情報公開の推進を図るとともに、市民一人ひとりの声を市政に反映するための仕組みづくりに努めているほか、まちづくりに関する事業を展開したり、自治会などの地域コミュニティの育成を図ろうとしています。
「みんなが協力しあって、素敵なまちを作りあげよう」簡単に言うそうですが、

情報発信の充実について 「協働」の「伝える」というカタチ

現在ホームページのリニューアルの準備を進めているほか、広報紙「広報南島原」の紙面の充実、ケーブルテレビへの情報の発信についても積極的に取り組んでいます。まず、市を知ってもらう。それが協働のスタートです。

市政への市民参加について 「協働」の「参加する」というカタチ

市民と行政の信頼関係なしに、協働はなしえません。ですから、市では、市民の方からお話をお聴きすることを大事に考えています。

市では、市議会のほかに市政懇談会を設け、市民の皆さんのご意見をお聴きし、前向きな検討はもちろん、できないことについては、きちんと説明するよう心がけています。そうした対話こそが、市民との信頼関係を築き、市民協働の礎になると信じています。市政懇談会の模様を次のページからお伝えします。
今後いろいろな形での懇談を準備しますので、皆さんの声をお聴かせください。

行政情報の公開について 「協働」の「共有する」というカタチ

市にはたくさんさんの有益な情報があります。一方で、市は、公正である機関でなければなりません。「市の情報はみんなの情報」という認識のもとに、市の例規集の公開、財政状況の公表、工事発注・入札情報の公表を行っています。このことは、市の公正さを保つうえでも重要なことです。市の情報は市民の皆さんのもの。もちろん個人情報取り扱いに最大限に注意しながら、できるだけ公開するよう努めています。

地域コミュニティの活性化 「協働」の「楽しい」というカタチ

今回3人（1人は次ページ）にまちづくりに対する市への想いを語ってもらいました。皆さんもまた、それぞれが違う「楽しいカタチ」を育てていると思います。生活の基本となる自治会、皆さんが所属するいろいろな団体の中での楽しく毎日を過ごすか。市は、この「楽しさ」の創出のために、皆さんと力をあわせて、いろいろと知恵を絞っていきたいと思います。よろしく願います。

！会の発足のきっかけは何ですか？

合併前に、当時の町のガイド養成講座を受けたメンバーが、やりたいと言いつ出したのがきっかけです。受講者のほとんどが、子どもの頃から原城を庭のようにして遊んでいた。美しい景色と、優しい風にあたるだけで気持ちいい。みんな原城が大好きだから、それが一番の理由かな。

！どのような活動をされていますか？

ガイドはもちろん、そのほかにも、いろんな勉強をやっています。学術的なことを伝える以上に原城の魅力を伝えるのが私たちの目的です。そのためには、人間的な魅力を磨かないと魅力的なガイドはできなし、魅力は一人ひとり違うからガイドのガイドラインもない（笑）。個人の個性や魅力で、原城を伝えたいと考えているからです。

！紙芝居を作成されたとか？ 手間はかなりの



原城の魅力を私たちの魅力で伝えるのが一番の魅力！！

かつていますが、終わってみると、意外と簡単にできたなというのが正直な印象です。結構好評です。現在は、読みに来てくださいますか。と言われるのを楽しみに待っている会員もいますね。

！世界遺産の登録についてどうお考えですか？

私自身ものすごく期待しています。市の担当者は一所懸命でしょうが、市全体としてのトーンはさほど高くない。「できるわけがない」、という声すら聞こえる。でも、考えてみてください。自分たちが住む市に世界遺産がある。これ以上大きな夢のある話があるでしょうか。市もがんばっていると思いますが、市民もまた、みんなで盛り上げていく必要がある、そう思います。



！主な活動は？

現在は、市内各地から3千人以上の子どもたちが訪れるイベント「自然と遊ぶ」でのそのめん流しが主な活動になっています。かつては、550メートルのそのめん流しをやって、日本一のそのめん流しとしてギネスブックに掲載されたこともあります。

また、阪神・淡路大震災の際には、現地の避難所でそのめんを配給したこともあります。水は現地調達可能という情報を得ていたので、無償で借りしたマイクロバスの座席をはずして、釜やガス、山ほどのそのめんを積みこんで、急ぎ被災地向かいました。現地ではこちらの出身者の方が出迎えてくれていて、一緒に炊き出し活動を行いました。

！すごいことですね。大変だったのではないのでしょうか？ 避難者の方を慰めたい、その

一心だったからか、大変だった記憶はそれほどありません。みんなが力をあわせてたから心地よい満足感があつた。そして、できる人が、できるときに、できる分だけやった。それだけだったと思います。よい思い出もあります。

！「できる人が、できるときに、できる分だけ」良い言葉だと思えます。

これは、私たちの活動の基本理念といえるかもしれません。（笑）市になって、可能性は広がったと思います。町を越えて協力したり、情報が得られるようになったし、期待も大きい。自分に何ができるかを一人ひとりが考え、連携できれば、市はもっと変われると思います。

！市民の立場から何かご意見はありませんか？

行政だけでも民間だけでもできない時代が到来している今、そのどちらでもある市の職員の責任はますます大きく、職員の皆さんが、市民や各グループとまちづくりでもっと協力できれば、地域が活気づき、市の発展につながると思います。



今月の表紙

今月の表紙は、4月27日(日)、西有家町見岳名運動会です。この運動会は今年で49回目。小関実行委員長は、「昭和天皇逝去のとき以外、毎年欠かさず開催されてきた。いろんな意味で私たちの生活の一部」と話されました。ある役員も「見岳名は、この運動会もそうだけど、地域を楽しくするための努力を誰も惜しまない。そんな「見岳」が僕は大好きなんだよね」と少し照れながらおっしゃっていました。



目次 CONTENTS 今月の特集 『協働のカタチ』 P2～7 『南島原市の予算』 P8～9		
南島原にゆーず……………P10～15	まちの話題……………P22～23	保健事業のご案内……………P27
『もっと南島原』ツアー……………P16～17	明日の世界遺産……………P24	市民カレンダー……………P28
各種お知らせ……………P18	ひまわりプラン……………P25	
くらしの情報……………P19～21	図書館だより……………P26	